



# 読み方のポイント

YHS 楽譜のふりがなは、見た通りに読んでいただいても概ねそれらしい発音になるように設計していますが、より正確に理解されたい場合は以下の凡例をご参照ください。

※ []内は国際音声記号(IPA)

**【原則】** カタカナは子音のみ発音し、ひらがなの母音で音を伸ばす。

- spo 「スぽ」 [spo] → 「ス」の子音だけの後に、「ぽ」と発音する。伸ばす母音は「お」。
- pe 「ぴえ」 [pje] → 日本語の「ぴゃ」「ぴゅ」の言い方で、母音を「え」にする。  
[j]は硬口蓋化といい、舌の面を軟口蓋に近づけた発音。スラヴ語派の特徴で、日本語にも多い。  
「ぴゃ」で[p]と[j]を分けないと同様に、「ぴえ」と二重母音にならないように注意のこと。  
be 「びえ」 me 「みえ」 ne 「にえ」 ke 「きえ」 ge 「ぎえ」も日本語と同じ。
- ve 「ヴィえ」 [vje]、fe 「フィえ」 [fie]、  
pe 「りえ (巻き舌の R)」 le 「りえ (舌を上前歯の裏にしっかり付けて L)」  
→ 理屈は上の「ぴえ」などと同じだが、子音が日本語と異なるので注意する。
- te 「ティえ」 → 理屈は上と同じだが、「ちえ」と誤りやすいので特に注意する。
- sya 「スイヤ」 → 理屈は上の「ぴゃ」の場合と同じだが、「しゃ」と誤りやすいので特に注意する。
- tyi 「トゥい」 [ti] → yi 「ウい」は、唇の形を「い」のように横に引き、口の中で「ウ」と言う母音。  
これに子音tをつけて「トゥい」と表記している。そのほかの子音がつく場合も同様。  
「ウ」と「い」が離れて二重母音にならないように注意のこと。
- x 「kh」 → ドイツ語の (広い母音の後の) ch。  
xa のように母音を伴う場合、「kha」を便宜上「kは」と表記している。  
「いーkh」のように狭い母音の後にくる語尾のkhも、広い母音の後と同じ発音となる。
- sh 「シュ」 → 日本語の「しゅ」の子音より、喉の奥の方 (xと同じ位置) で擦れる。  
母音を伴う場合は she 「シュえ」のように表記するが、母音「え」の前に「う」が入って、「しゅえ」のように二重母音になってしまわないように注意のこと。
- zh 「ジュ」 → 上の sh 「シュ」の有声子音。フランス語のjの発音と同じ。
- ら行の子音は、対応するキリル文字が p の場合は巻き舌の[R]、л の場合は[L]で発音する。